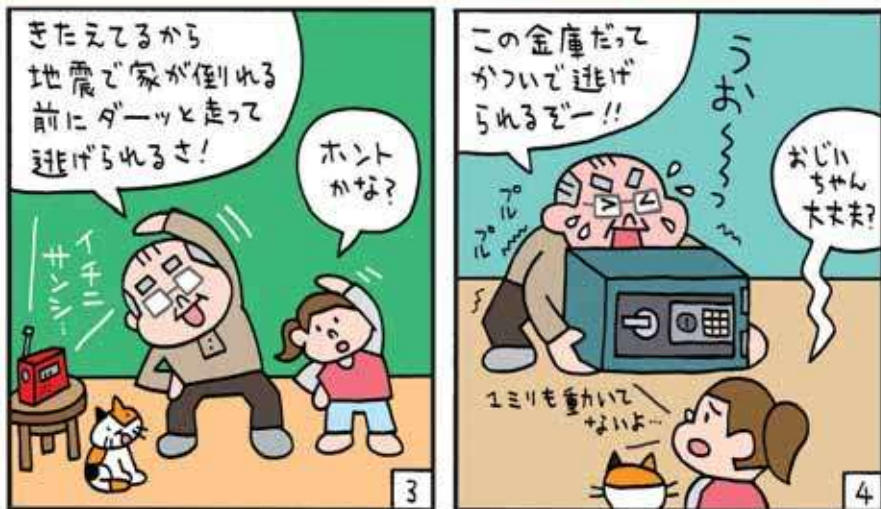




そのときは逃げればいじゃない!



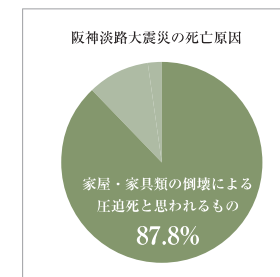
避難生活では健康な人でも心身ともに大きなストレスがかかります!

様々な困難が、あなたや家族を待ち受けています

逃げるできないかもしれません

阪神・淡路大震災の神戸市内では、地震が起こった午前5時46分から午前6時までの間に亡くなられた方が死者全体の92%という報告があります。

地震が起きた直後の約15分間。この数字からわかることは、その時あなたや家族がそこにいたなら、地震に弱い家から逃げ出すのはとても難しいということです。



兵庫県警察本部の資料より

逃げられたとして、元の暮らしのように戻れないことも

仮に地震が起きた瞬間にあなたが無事であっても、家が壊れてしまえばその場で生活を続けることはできません。あるいは家が少し傾いただけでも、余震の不安があります。地震で家の問題が起きたとき、多くの場合は避難所を訪ねることになるでしょう。

その時、たとえば在宅で介護や医療を受けていたり、ペットを飼っていたりして、最寄りの避難所では受け入れてもらえない場合もあります。



避難所でペットが受け入れてもらえない



いつもと違う食事
トイレやお風呂も大変



空調の効かない室内
プライバシーのない生活



車中避難で
エコノミー症候群に…

自宅の再建が難しいなどの事情で避難が長期化すれば、避難所から仮設住宅へ…

阪神・淡路大震災では、住んでいた家の被害が大きかった人ほど、その後においても心や身体へのストレスが大きかったといわれています。そして被災6年後の調査の時点でもなお、住んでいた家の被害程度が被災者のストレスに大きな影響を与え続けていたと報告されています。

おじいちゃんに何年もつらい思いしてほしくないよ…

